

令和元年度 学校経営に関する自己評価（職員用）まとめ

4・・・よく当てはまる 3・・・やや当てはまる 2・・・あまり当てはまらない 1・・・当てはまらない

重点項目		児童の確かな学力の定着と、自ら学ぶ意欲や思考力の育成	
評価項目		評価	成果と課題 （○成果 □意見 ●課題）
1	学力向上に向けて ・算数ステップ、朝の読書が有効に機能している。（基礎的学習の定着、読書の習慣化） ・普段の授業を子どもの興味・関心と関連させ、工夫して展開している。（授業の工夫・改善、評価の工夫・改善）	3. 0	【算数ステップ/読書の習慣化】 ○登校時間が遅れても算数ステップに取り組ませることができた。 ○興味のある本を家から持ってこさせたりブックトークをしたりして本を読むことに意識が向くようにした。 ○算数ステップは習慣化につながっていた。 ○算数ステップは習慣化している。 ●算数ステップは学習の進度に合わないことが多かったように感じるので、重点を（1年加減計算、2年かけ算、3年わり算、4年2けたのわり算）の様に決めるのが有効な気がする。 ●算数ステップのプリントと進度が合わないことが多かった。 ○朝の読書は効果的だったように感じる。100マスの目的もよかった。 ○ひまわり級は朝の時間は身支度や心の安定を図ることに使っており、あまり取り組めていない。読書は別の時間にとったり、読み聞かせを行ったりしているため、お話し（本）は好きになった。 □読書は週一では物足りないように思う。 □隙間時間にも読書ができるように意識付けを行っていく。（読書タイムプラスが大切） □定着させるには週に2回読書タイムの時間が欲しい。 □給食準備時間など具体的な隙間時間を全校読書にあてられないだろうか。 ●朝の会が10分で終わらず、朝活に食い込んでしまっていることが課題 ●読書があまり定着していないように感じる。 【授業の工夫・改善/評価の工夫・改善】 ○本時のめあてを提示し、見通しをもたせながら授業を展開することができた。 ○時間通りに始め、集中して行えた。 □校内研の内容が普段のものになるといいなと感じる。発表のための研究にならなければいいなと思う。
2	家庭での学習時間の確保のための家庭との連携、協力関係ができている。（家庭学習の習慣化と家庭との連携）	2. 9	【家庭学習の取組】 ○頑張ったことを連絡帳や音読カードのコメントに書き、家庭と情報交換しながら進めた。 ○プリント、漢字ノート等曜日ごとにルーティーンが定まり、児童も意識できていたように思う。 ○家の方が宿題をよく見ていると思う。 □学校の中で各学年このような家庭学習をしようというような指針があるといいなと感じる。担任の色もあるだろうが、今の状況ならば必要ではないか。 □家庭の教育力や実態が様々な中で、どこまでお願いできるか常に探り探りの状態。宿題を提出しない子への対応をみなさんはどうしているのか是非聞きたい。 □家庭によって差があり大変かと思うが、学びに向かう姿勢を家庭と協力しながら子どもたちに身につけさせたい。 ●やってくる子が少ない様子が見られた。当たり前のことは当たり前にしたい。 ●丸つけ、返却が遅くなってしまったのが課題。 ●家庭によって差が大きい。
3	TT、少人数指導、リソースルーム、支援教育など、個に応じた指導の充実のための校内体制が有効に機能している。	3. 2	【個に応じた指導の充実のための校内体制】 ○支援員が子どもの実態・ニーズに応じて柔軟に対応してくださり、とても助かっている。 ○リソースなど人をあてての指導は細かく行っていた（もっと人がいると助かる） ○「チームまなづる」で取り組むことができたが、人員不足を感じた。 ○リソースが2人体制になってよい。 ○保護者と連携を取りながら、個に応じた指導・支援ができた。 ○支援級に支援員が2人来てくれて助かった。 ○複数人数体制はよい。 ○リソース、支援ともにとても細やかな丁寧な見取りをしてくださりありがたい。継続してお願いしたい。 □普段の学習で「お客様」になっている児童がいるように思う。そうならないために一斉指導の在り方も考える必要はないか。リソースありきで学習をつくるのは、少し違和感がある。 ●リソースでの学習内容を事前に打ち合わせができていない。 ●特定の児童に付きっきりになってしまうこともあった。 ●支援級の動きをつかみきれない。相談の時間がなかなか取れない。

4	教育課程の整備・改善を図り、教科・領域の指導計画等が整えられている。 (授業時数の確保、予算の確保、指導計画の整備等)	3. 0	【教育課程の整備・改善（外国語活動への対応を含む）】 ○来年度の新学習指導要領本格実施を見通して、教育課程の整備改善に取り組むことができた。 ○次年度に向けて計画を立てている。時数の確保、内容改善に向けて今後も取り組んでいきたい。 ○まなづる小カリキュラムが4月にできていることはとてもありがたい。 □単級だからこそ大切さを感じる。授業時数がびっしりと組み込まれている状態で、5年の福祉作文、何かのふり返り、お楽しみ会、係など入って来るものや入れたいものをどう入れていくか悩む。 □まだ途中で評価しづらい。 □教育課程の見直しと共に、学校安全計画にも目を通し教育活動の安全を意識したい。 ●古いものが多く、使えない、使っていない備品も多い。 ●図工の備品や清掃用具の整備まで手が回らなかった。 ●年度途中で突然計画にないものが入っていくと時数が変わってしまい大変に感じた。（5・6年のセーリング体験等）
重点項目		児童の豊かな心の育成	
5	校内指導体制を確立し、共通理解・共通行動を図り、全職員で指導する。特に問題行動に対しては、すばやく対処し、解決を図っている。	3. 2	【児童指導に関する校内指導体制の確立】 ○お金に絡むトラブルがあったが、教員同士保護者と連携を取りながら解決策を考えることができた。 ○先生方の意識は高いと感じるので、これからもアンテナを高くはっていきたい。 ○問題行動に対して関連する担任と連絡を取りながら、複数で対処することができた。 ○管理職にすぐ相談でき、対応のアドバイスをいただけるのは助かった。 ○児童指導委員会等での共有ができた。 □単級であるからこそ迅速な対応を意識すべき。「ほう、れん、そう」をすぐに行うことを心掛けたい。 □みんなでできることをもっと相談したい。 ●ケース会議で決まった対応等は時間を置かず、すぐに全職員に周知してほしい。 ●共通理解はできているが、共通行動まではできていないのではないかな。
6	学校教育活動で日常的に人権教育に取り組むことで、教職員・児童の人権意識の醸成を図っていく。 アンケート調査、Q-U検査等による情報収集と実態把握、それに基づく児童指導の充実を図り、いじめのない楽しい学級づくりが進められている。	3. 0	【日常的な人権教育推進の取組】 ○「さん」付けはかなり浸透している。そのことから特に指導したわけでもなく、授業中に友達をさん付けで呼ぶように、児童も変容してきた。私たちの発する言葉は教材なのだと改めて感じる。 ●「障害がある」「平等とは」「支援級とは」→偏見が多くあるのが残念。 【いじめのない学級づくり】 ○Q-Uをつなげていきたい。 ○いじめ防止朝会は非常によい。2、3回あってもいいと思う。 □言葉遣いや相手との程よい決まりを保った付き合い方を教えていく必要があるのではないかな。ロールプレイ、ソーシャルスキルを取り入れながら、学年に応じて積み重ねていきたい。
7	不登校傾向の児童に対して、朝の家庭への連絡、家庭訪問や保健室登校といった対応、さらには地域の協力者、専門機関と連携を行うことにより、登校へ向けて組織的に取り組んでいる。	3. 4	【不登校傾向の児童への対応、S Cや専門機関との連携】 ○支援員の勤務体制の対応によりスムーズに集団に入れることが増え、欠席もなくなった。 ○休みの児童へ連絡を取るようにした。 ○放課後教室等、担任の負担は大きかったと思うが、きちんと対処して関係が築けていたことはとてもよかった。 □家庭への連絡は担任が行うのか。職員室でかけていただけるとありがたい。 ●課題のある児童が多いので対応に困ってしまうことがある。人がいると助かる。 ●遅刻が一向に減らない。全校で取り組みたい。
8	各学校行事の充実を図ることにより、児童にとって潤いと活気のある学校生活が保障されている。 基本的な生活習慣（あいさつ・礼儀・時間を守る等）の確立を図っている 携帯電話・ゲーム時間の管理の指導について家庭と連携を図っている。	2. 8	【行事の充実】 □行事に向けて張り切る姿、自主的に何かをしようとする姿は弱く感じる。そういう文化をつくれるといい。 □計画の段階で何時間かけるのかをできるだけ明確にすることで、行事のスリム化を図りたい。 ●ありすぎると感じる。普通に授業に取り組む時間が少なすぎる。 ●行事については今後精選していく必要があると思う。（段々人も少なくなるので、同じことは難しいのでは） ●やっただけのことはあるが、そこに力を注ぎすぎて他がおろそかになることがあった。 【基本的な生活習慣の確立】 ○今後も引き続き行っていく必要がある。朝会前の静寂は指導のたまものであると思う。他の習慣についても粘り強くやっていく必要がある。 ●時間を守ることやあいさつなどどれも、できない児童へ「注意する」というアプローチばかりになってしまっている。 ●あいさつ、礼儀、時間を守ることなどはもっと育てたい。 ●携帯・ゲームなどどこまで学校ができるのかは、考えどころ ●学校から生活習慣の指導をしても、家庭でのバックアップが足りないと感じた。 ●あいさつに関しては課題としてあげられることが多かったので、学年の実態を踏まえて指導を続けていく必要があると感じた。 ●なかなか身についていかないと感じている。時間をかけて家庭と連携していくべき。 ●ルールや約束に対しルーズな点が多い。

	重点項目	児童の健康づくり、安全の確保	
9	安全で充実した教育活動を保障するために、施設、設備面での改善や、登下校時の安全の確保が図られている。	2. 8	【施設・設備面での改善（校内外）】 ○もう一度安全という面で学校を見ることができた。気づかなかったことにも気づけた。 ○改善には努めていた。 ○安全点検をしっかりとしたので大丈夫だと思う。 □やるべきことがたくさんある。協力して一つ一つ行っていきたい。 □現在進行中の施設の改善をしっかりと進め、保護者地域にも理解してもらいたい。 ●老朽化する校舎（床、壁等）を考えると、きりがないと感じる。 ●常勤職員が徐々に減り、一人当たりの分担が増える中、安全点検のやり方もこのままではよいのかなと感じる。 ●「ブロック塀の触診」「遊具のチェック」等、素人には判断が難しいと思う。 ●来年度の安全点検は分掌の教科担当が該当教室の点検をした方がいいと感じた。今年度体育部でない人が体育館を、家庭科部でない人が家庭科室を点検していて困ることがあった。 【登下校の安全の確保】 ○児童の自己防衛意識、危険予知力を高められるよう指導をしている。 □町の協力もいただきながら行っていければよい。 □最終下校時刻までどうするか。帰っていない児童は休み時間と同じ扱いなのだろうか。
10	家庭と連携し、食育を中心とした健康づくりや、望ましい生活習慣の定着を中心とした健康管理が進んでいる。（学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発活動）	3. 0	【食育を中心とした健康づくり】 ○給食がおいしい。児童も楽しみにしている。大切な時間となっているように感じる。 ○苦手なものが食べられるようになった。 【学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発】 ○お便りが中心。 ○上履きを踏む児童には、自分に合った靴を履くことを意識付けすることができた。 ○たくさん努力して働きかけてくれた。 ●心配な家庭ほど読んでくれない気がする。
	重点項目	職員の指導力向上と校内研究の推進・幼小中12年間の教育	
11	幼(保) 小中連携研究を進める中で、12年間を見通した教育内容の厳選と基礎・基本の定着が図られている。幼小中連携と学年の段階性と連続性を図る。	2. 8	【校内授業研究（連携教育）】 ○幼小中との距離が近いので、先を見通した教育は進められそう。 ○教員同士の交流が図られたのがよかった。 ○今回は幼稚園を主に見に行った。互いのやってることを見合う機会を今後も大事にしていきたい。 【交流等の行事】 ●いつ行くかよく分かっておらず、行かなかった。 ●園児交流はこの先も単級なので、園に行くのが大変だと思う。体育館に3園が集まる日で5年生が計画したことを行うのでもよいかなと思う。 ●園児交流はよいが、来てもらって行うことは難しいか。（体育館での）3園の交流を増やしてもらい、何回目かを5年生が仕切るとよいのではないか。 ●日程を変更せざるを得なくなったときの調整が、本当に難しい。
12	校内研究の授業を行うことや初任研や年次研に全員で取り組むことが、職員個々の指導力の向上につながっている。	3. 2	【校内授業研究】 ○教科を絞ったことがよかったと思う。他学年の授業から感じたことを授業に生かせた。 ○先生方の意識が高く、チャレンジ精神に溢れているのはよいと思う。 ○校内研究で見合うことや協議は指導力の向上につながっていると思う。 ○よりよい学び合いに向けて意識を集中して取り組むことができた。 ●誰のための研究か。もっと児童にかえせるものになるといいと感じる。授業発表のための研究になっているのではないかと感じる。 【初任研・年次研・自主研】 ○初任研では全職員の協力で研修を進めることができた。 ●自主研はやりたいと思いつつ、皆さん忙しすぎて声をかけにくいというのが現状でした。 ●小中連携授業がなくなったので、自主研すべきだったと思う。 ●研修も大切で今年は充実していた。しかし、話し合いの時間が足りていない。
13	児童指導や支援教育、道徳の時間の校内研修により、個々の教師の指導力の向上が図られている。	3. 3	【校内研修】 ○道徳研修はありがたかった。 ○道徳の授業をがんばった。 ○学級経営のやり方について、渡辺先生のお話を聞く機会がたくさんあってよかった。

重点項目		地域協働・開かれた学校づくりの推進	
14	教育課と連携しながら地域協働の推進に全校で取り組み、地域の人材（保護者）の活用により、教育活動の充実が図られている。 地域と連携しながら教育活動を行い、「真鶴ふるさと教育」の推進を図っている。（海水浴体験、海の学校、真鶴絵画館等の取り組み）	3. 5	【地域の人材（保護者も含む）を活用しての取組】 ○（バスなど）地域をたくさん活用できる環境が整っている。 ○様々な人材に協力していただき、深い学びをすることができた。 ○4年目にして町教委の方や寺西さん小渕さんと距離が近くなりました。町の人に協力をお願いしやすくなって活動の幅が広がりました。 ○スクールサポーターの活用は授業のスムーズな運営にもつながり、ありがたかった。 【「真鶴ふるさと教育」の推進】 ○2年生は海の生き物の飼育に取り組めた。 ○取り組んできていることを次年度に引き継いでいくことが大切。1年で終わりにせず、積み重ねていきたい。
15	学級・学年・学校だよりの発行、ホームページの開設により、特色ある教育活動を公表し、保護者、地域に理解が得られている。保護者教育相談、学校公開日の設定により、教育活動について保護者、地域に理解が得られている。	3. 0	【学級・学年・学校だよりによる取組】 ○学級便りは毎週発行し、クラスの様子を伝えることができた。 ○学級便りが週1でなくなったぶん、出されたときは伝えたいことがはっきりわかりよかった。続けたい。 ●自分としては伝えていたつもりだが、保護者アンケートによるとあまり伝わっていないようだった。 ●ホームページが早急に使えるようになるとよい。 ●発行頻度が少なかった。 【保護者の教育相談、学校公開日の取組】 ○実際に見てもらふことや話をするこで、実際を知ってもらえたようだった。 □3日間は必要だと思う。